



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年12月

～冬休みは、親子の会話を大切に！～

12月24日（金）から冬休みに入りますが、保護者の皆様には是非、子供との会話を大事にしてほしいと思います。親から話しかけないと子供もなかなか話しません。その中から子供は社会の常識や世間のことを学び、価値観を身に付けていきます。年末の忙しい時期ですが、話す機会をできるだけとっていただければと思います。家庭での楽しい会話は、子供の心を安定させます。心の安定は、子供のいろいろな力を伸ばす基となります。また、親子関係も一つの人間関係ですから、子供は親子の会話から人間関係も学んでいきます。将来、社会に出て働くようになったとき、「人間関係をうまく結べる力」は欠かせないものです。いくら仕事に関する能力があっても、人との関係がうまくいかないと能力は認められません。まずは、“あいさつ” “目上の人への言葉づかい”の大切さを教えていただければと思います。親子は友達ではなく、大人と子供の違いを教える関係でもあるからです。どうか、この冬休みは家族で多くの話をしてください。例えば、今年活躍した人たちの話題や将来の夢、コロナ禍で頑張ったことなどの話をしながら、子供への期待や親の苦労話…等々、親の思いや考えを話してあげてもよいのではないのでしょうか。子供はそんな“親”を尊敬し、あこがれ、目標にして大きく育っていくことでしょう。

保護者、地域の皆様におかれましては、今年一年間、子供たちや学校のために格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆様がよい年を迎えられますことをお祈りいたします。



スマイルハッピータイム（ふれあい活動）

心をひとつに 「全校道徳」

6日、「全校道徳」を実施しました。1年生から6年生が縦割り班で「笑顔いっぱい 心つながる中央っ子」という共通のテーマで心の学習を行いました。はじめは、異学年が一緒に話し合うことなどできるのだろうか、本当に深まりのある心の学習になるのだろうかと不安をもつ教師も多くいました。しかし、学習が始まり、「学級でのよくない行動」に関するイラストが描かれた資料を見た1年生は、口々に「これ、ひどい」「こんなことされたら、誰だって嫌だと思う」「ひとりぼっちの女の子がかわいそう」等々、つぶやきが止まりません。さらに、担当教諭の発問に対しても自分たちの考えを自由に話す姿がありました。その後は6年生が中心となって、下学年の考えを聞いたり、他に広めたり、時には下学年が上学年に質問したりするという場面が、いくつもの班で見られました。低学年のストレートで的確な意見は、高学年にとって、心の中で思っているもなかなか口にできないこと、いつもなら周りの友達のことを気にして言えないことも多く、とても心に響いていたようです。



「全校道徳」において、真剣に意見を交わす子供たちの姿は、本校の自慢の光景になりました。長い期間、コロナ禍で異学年の交流ができなかったのですが、これまで伝統的に行ってきた縦割り班活動で育まれた「相手を思いやる心」を大切にし、これからも何でも言い合える中央っ子を育てていきたいと思っています。

なお、「全校道徳」の様子をまとめたものが、Net3で放映される予定です。是非、ご覧ください